

平成 23 年 5 月 19 日

5 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、丸太の生産は順調で平年を上回る入荷が続く。杭木の材料として小径木の需要は好調。震災直後は製材工場の思惑や補修需要もあり、一部材種で引合いが強まったが、新築需要の停滞から製品の荷動きが悪化しており、構造材を始め荷動きは極端に弱まった。価格は全般に前月から値下がり状態、特に、柱材の値下がり幅が大きく、 m^3 当たりスギで 1,500 円、ヒノキで 3,000 円程度下がった。中目材はスギが弱含み、ヒノキは弱保合。震災で新設住宅着工に影響が出ており、早期の着工回復が望まれるが、梅雨を控えて、原木市況の先行きは一層不透明の状態。群馬は、原木入荷に問題なく、製材工場の操業状況も、やや軟化傾向だが特に問題ない。ただ、製品販売の先行きに不透明感が拡大。製品価格は値上げから一転し弱気配状態。スギ原木は入札枚数も減り軟調。羽柄材需要も一服。東北からの入荷は、乾燥材を除き問題はなくなった模様。

2. 米材

3 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 7.2%増の年率 54.9 万戸となった。米国丸太は前月同様中国の買いが旺盛で価格は強含み。また、カナダ丸太も同様で、価格は強含みの展開。4 月の産地港頭在庫は約 8,560 万スクリブナー(約 41 万 m^3)。また、ウェアハウザー社の 5 月積み米マツ IS ソートは引続き強含み。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫は増加傾向。大型港湾製材工場の 4 月の荷動きは、全般的に前月を多少下回った模様。内陸部製材工場の荷動きに回復の兆しは見られない。一方、製材品の入荷状況は予測どおり多少減少したが、出荷は増加傾向。在庫は減少傾向。カナダ産地情勢は中国から米マツ、米ツガ丸太の引合いが依然旺盛、かつ、パルプ用材丸太も値上がりし、全体として原木価格は上昇。また、原油高により輸送コストが上昇し、製品価格は上昇。産地価格は、上昇気味。震災直後の仮需から一転して、4 月は通して荷動きが鈍い状況。

3. 南洋材

サバの天候は引続き不安定で出材に悪影響。このため原木相場は売り手市場

が続いており、強含みの展開。製材工場には良材が入荷されず、注文に応じられず、強気一辺倒の状態。サラワクは4月中旬以降多少天候回復が見られ、伐採業者は高値相場の中、生産意欲も旺盛で、今後出材は順調と予測。丸太相場は日本向け合板価格にもよるが、そろそろ天井感が出ている。伐採現場はかなり奥地で、2次3次林が大半を占めており、良材の生産はかなり減少。PNG・ソロモン材は、引続き中国、インド等からの引合い旺盛で、相場は一段と強含み。丸太の入荷は減少、出荷は横這いで在庫は減少。製材品の入荷は横這い。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品の販売は、震災の影響で全般的に荷動きは低迷。

4. 北洋材

ロシア極東は冬山造材の最終追い込みで出材は順調だが、一部は夏山への機材シフトを開始。価格面ではエゾマツを中心に中国沿岸部の過剰在庫が影響し、荷余り感が出てきており、売れ残りの玉も出てきている。6月以降のアムール材出材まで待ちの客先も多いのではと推測。シベリア地方も冬山造材は終了に向かっており、4月に入り出材は低調。満州里エリアの引合いは依然旺盛で、こちらは価格下げの傾向は見られず、シッパーも強気を継続中。富山港・富山新港の4月丸太入荷は、26,573 m³(アカマツ 9,623 m³、エゾマツ 16,950 m³)と先月比16%増。一方、製品も17,988 m³で先月比36%増。荷動きは、丸太は順調だが、製材品は輸入製品、国内挽きともに荷動き鈍い。在庫は3~4ヶ月。価格は丸太は強含み、製材品は内地挽きは横這いで輸入完成品は強含み。国内製材工場は、急激な原料値上げで採算取れず引き続き厳しい状況。

5. 合板

合板用丸太価格は、国産材・外材とも、じり高が続いている。特に南洋材丸太は、振興国が買い控えをし始めており、様子が変わりつつある中、日本のメーカーは必要最低限の手当を継続している状況。3月の国内の合板生産量は、前月同様に宮城県、岩手県を除く数値で約16.6万m³で、うち針葉樹合板は13.8万m³(対前年同月比70%)で前月に比べ一段と減少。出荷量は13.3万m³(同68%)となったため、在庫は9.8万m³となった。予想通り在庫量は少なく、流通での不足感は強く、この状況は当分続くとの見通し。販売価格は、国産南洋材合板メーカーは急ピッチで価格転嫁を進めてきたが、針葉樹合板の価格動向や輸入合板の入荷増などもあり、一般ルートでは、トーンダウンし始め冷静な反応となっている。一方、直需関係は安定供給を求めていることから、購買意欲に変化はない。国産合板は震災から1ヶ月半が経過し、一時の混乱は収まり、荷動きは落ち着き始めているが、依然として、針葉樹合板は市場での不足感が強く、

引合いは旺盛。特に、ネダノンや長尺、特寸などは十分な手当が出来ない状況。輸入合板は、国産合板同様に荷動きは落ち着き始めている。震災後の急騰が顕著だった価格は、強基調に変わりが無いものの、緩やかな上げ幅へと移行。震災後オファーした玉が一部入港され始めたが、産地での生産は全体的に遅れており、今後の入港は当初の予定よりずれ込む模様。流通在庫の動向は、不足感から早めに手当を進めたところが多く、輸入合板を中心に増加傾向。一方、針葉樹合板は引続き手当が難航しており、低水準な在庫状態が続く。

6. 構造用集成材

欧州ラミナは順調に入荷。福島原発の影響が懸念されたが、今のところ出ていない。ラミナの5月積みに関しては、各社とも在庫が多く切迫感はない。しかし現地では他国のマーケットが動いており、日本向けはWWを中心に数量が出にくくなっている。輸入集成材は、5月積みはすでに58,000円/m³程度で決定済。国産が一部弱含み始めている地域もあるようだが、輸入品は数量が少なかったことと、在庫補充する問屋向けに動きが活発だったことから価格は強い。国産集成材の受注状況は、一部地域で復興住宅向けに国産カラマツ梁桁を使用する動きや、大型連休明けからは、合板が順調に入荷し始め、停滞した上棟物件も動き始め、受注はやや上向き。震災の影響は若干落ち着きつつあるが、断熱材等住宅資材は依然不安定な状況。

7. 市売問屋

国産構造材は、震災の影響で新築着工の減少、工事進捗の遅れによりスギ、ヒノキともに停滞気味。外材は米ツガ小角、米ヒバ内地挽土台はまずまずの動き。造作材は、スギ、ヒノキともに良好、スギ桁平割羽堅調。外材では、引き続きスプルー、ピーラーの良材は好調。合板不足も落ち着き、野地板用スギ4分板は余剰感が出てきたが、スギ垂木等羽柄材は入荷少なく引合い多い。連休明けの荷動きがどうなるか気になるところ。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割強保合。ヒノキKD柱変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角KD変わらず。ロシアアカマツ良材は入荷少なく強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。合板は、針葉樹合板9mm、厚物を除き、量は足りないが入荷しており、価格は200~300円/枚程度値上がり。ラワン合板も少量入荷で、価格は300~400円/枚程度上昇。床板は低級品が強保合。プレカット工場の動向は、合板の手当次第というメーカーもあり、現状はかなり回復。今後耐震補強の受注に力を入れると話す工務店も出ている。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)